

「アトピー性皮膚炎患者におけるデュピルマブの効果予測因子の検討」 に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間: (2019年11月8日) ~ 2023年3月31日

〔研究課題〕

中等症から重症アトピー性皮膚炎患者におけるデュピルマブの効果予測因子の検討

〔研究目的〕

アトピー性皮膚炎は、全身にそう痒を伴う湿疹病変が左右対称性に悪化と寛解を繰り返す慢性皮膚疾患です。2018年4月に中等症から重症のアトピー性皮膚炎に対してデュピルマブ皮下注射が保険適応となり、高い効果を示しています。しかしながら、有効性が乏しい患者が散見されており、顔面の病変においては難治な症例が報告されています。本研究では、デュピルマブの効果と、初診時の患者背景や採血データとの関連性について検討します。

〔研究意義〕

投与前にデュピルマブの有効性が予測できれば、患者さんへの効果の説明に役立ち、また併用療法を検討することで有効性を向上させる可能性があります。

〔対象・研究方法〕

2018年5月以降に帝京大学医学部附属病院皮膚科を受診した中等症から重症のアトピー性皮膚炎に対してデュピルマブを投与した患者さんを対象とします。デュピルマブ投与前のそれぞれの患者さんの初診時の所見（年齢、性別、罹病期間、既往歴、前治療歴、体重・身長、皮疹の重症度、QOLスコアなど）、採血データを後ろ向きにカルテから情報収集します。また、デュピルマブ投与前、投与後の皮疹の重症度評価の情報を収集し改善率を計算し、投与前の各データとの相関を調べます。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院 皮膚科

責任者: 帝京大学医学部皮膚科学講座 主任教授 多田弥生

〔個人情報の取り扱い〕

個人情報は厳重に管理されます。学会や論文など学外へ情報を発表する際には匿名化を行うため、患者さんが特定されることはありません。対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 帝京大学医学部皮膚科学講座 主任教授 多田 弥生

研究分担者: シニアレジデント 加藤和夏、シニアレジデント 伊藤誠時、シニアレジデント 内田秀昭、
員外助手 長田麻友美、准教授 鎌田昌洋

住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211

(代表) [内線 32610]